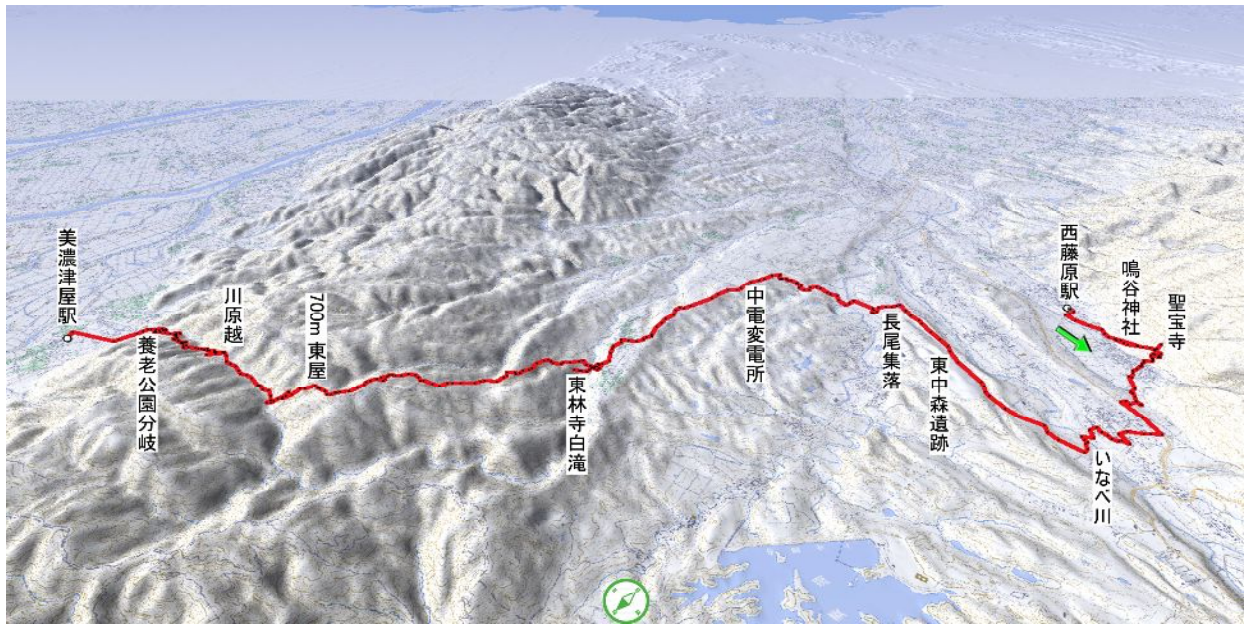


健康登山69: 自然歩道38 (西藤原 ~ 川原越 ~ 美濃津屋駅)

コース	西藤原民宿 1.0km/15 4.1km/65 1.9m/48	鳴谷神社 1.0km/22 中電変電所 3.4km/58 川原越 2.2km/80	聖宝寺 5.4km/83 東林寺白滝 3.4km/120 養老公園分岐 1.6km/23	東中森遺跡 700m東屋 美濃津屋駅
水平距離	24.0km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離				
累計高低差	登り1116m、下り1239m			
標準歩行時間	8 : 34			
実績歩行時間	8 : 27			



山行報告

山行日 2011・10・07(金) 天候 晴れ 参加者 3名

西藤原民宿7:09 鳴谷神社7:26 聖宝寺7:52 いなべ川8:53 東中森遺跡9:21 長尾集落9:56 中電変電所10:53 東林寺11:40~12:30 700m東屋14:04 川原越14:51 養老公園分岐16:12 美濃津屋駅16:36 京都駅19:12

記録

今日の行程は24kmの長丁場で後半には700mの川原越えがあるので早目の出発とした。7:10 出発、民宿前が藤原岳の登山口だが、これを見送りはじめに鳴谷神社に参拝した。その後鳴谷を詰めて滝へ向ったが踏み跡が無いので引き返して遊歩道の急な階段を登り聖宝寺にお参りした。よく手入れされた聖宝寺園地の奥に鳴谷の滝があった。

聖宝寺から先は道標に従って歩いたが、坂本集落では地元の自然歩道ではなく雰囲気の良い屋根のない学校ゾーンを通過して、一旦国道306を歩き山口集落に入ることになっている。山口集落と長尾集落の間には藤原工業団地があり車の往来も多い。工業団地のはずれに東中森遺跡があり、ここからは静かな林間道になり、通り抜けたところが長尾集落である。

長尾から送電線に沿うように農道を東へ進むと南北に走る林道に出る。この林道を北上すると直ぐに中電西部変電所があり、さらに進むと川原集落に着く。川原には東林寺白滝がある。滝の傍のベンチで昼食をし、記念撮影をした。

いよいよここから川原越えが始まる。この辺りの標高は約200mで700mの川原越えまでは登り道である。最高地点付近に東屋があり少し休んだ。川原越えは三重県と岐阜県の県境で三重県側の道はよく整備されていて歩きやすい。川原越から少し北へ登ったところに展望台があり岐阜県側の展望がよい。案内板には乗鞍岳や白山も見えると書かれている。

川原越から養老鉄道的美濃津屋駅へ下るのだが、峠に『マムシ・ヒルの生息地注意』の標識がある。岐阜県側の下り道はかなり荒れていて歩きにくい。スリッパしないように注意して下った。それでもヒルに噛まれて靴下が真っ赤になっていた。夏場には敬遠したい道である。

自然歩道も岐阜県に入り、帰路は美濃津屋駅から大垣に出て、東海道線で京都へ帰った。

自然歩道 (西藤原～川原越え)



民宿を出発
7:08



鳴谷神社
に参拝
7:26



鳴谷の滝
7:57



東中森遺跡
9:20



中電変電所前
10:53



東林寺白滝
12:25



川原越の登り
13:44



県境の川原越
14:51



下山道の
注意標識
16:10



美濃津屋駅
に到着
16:39

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：西藤原～川原越～美濃津屋駅）

参考資料 ホームページ他より

しょうほうじ
聖宝寺

：（藤原町坂本）臨済宗鳴谷山聖宝寺。本尊：千手観音。
大同2年(806)伝教大師最澄により開基される。
天正8年(1586)織田信長の宿将滝川一益により焼かれる。
万治2年(1659)に再興。藤原時代の作といわれる庭園がある。
紅葉の名所として名高い。藤原岳の登山口の一つで、275段の階段がある。

鳴谷神社：聖宝寺の鎮守の神として、近江の国、日吉山王社(現日吉大社)から勧請して山麓におまつりしたのが始まり。祭神は大山咋命。
滝川一益の戦火から免れ「村の鎮守神」として祭られるようになる。
明治に現名に改名された。
拝殿の前に「比売杉」「比古杉」といわれている2本の大杉の御神木がある。
10月に行われる、坂本の曳山車囃子は無形文化財。
坂本の集落名は日吉山王社(近江の坂本)の地名からきている。
此处より巡見道と東海自然歩道は、同じ道をしばらく通る。

鳴谷の滝：聖宝寺境内すぐ裏手に二筋の滝があります。
左の滝は自然の多段滝、右の滝は8mの直瀑の滝。

藤原岳自然科学館：藤原岳に生息する動物の剥製や植物昆虫の標本、古代生物の化石など展示されている。9：00～17：00。水～日祝、開館(無料)。(木、閉館)
(藤原町坂本)

敬善寺：戦国時代、豊臣秀吉に仕え、数々の武功を立てた児玉春信が「大阪冬の陣」で徳川軍に敗れ、この坂本の地に戻った後、出家し小堂を構えた。やがて本願寺に帰依し[釈敬善]と称し、それを寺号としたという。

善長寺：国道306号線山口交差点信号東にある天白池傍の丘陵地に山口城址がある。摂津池田氏(後の池田輝政の祖)分家で藤田氏が城主。信長の伊勢侵攻時、滝川一益により落城した。
藤田氏は離散したがその中に出家して「善長寺」を開基した。
山口城の北西800mに^{かみのひらのじょう}上平野城。東方900mに白瀬城。南方600mに本郷城があった。曲輪、土塁、空堀、井戸などが残っている。

いなべ
員弁川：御池岳北麓に水源を發し桑名市を経て伊勢湾に注ぐ二級河川。

いなべ市：(員弁市)読み難解のためひらかな(平仮名)表記登録されている。

平成 15 年 12 月 1 日、北勢町、員弁町、大安町、藤原町が合併。

【猪名部氏】：この地に 8 世紀頃、物部氏？の支流「猪名部族」が居住していた。

摂津の猪名川周辺から大和を経て移住してきた一族と、現住豪族との融合豪族。

東大寺建立で猪名部百世が棟梁(大工)として活躍した。

法隆寺、興福寺、石山寺の建立にも携わった歴史がある。

*「応神天皇」の頃、「^{からの}枯野」と呼ばれる優秀な船があったが、朽ちてきたので解体、その廃材で塩を造り全国に配布して造船を奨励した。

やがて 500 隻ほどの船が献上され、「武庫川」に停泊させていた。

「新羅」の使者が誤って多くの船を焼失させた。謝罪するとともに、船大工を献上したという。その人々は帰化し「尼崎郷」に定住、「猪名部」と名乗った。当時の船大工の技術は優秀で重要建築物の建設も携わった。

その一部が現在の員弁付近に定住したのが地名の由来。

始めは「猪名部郡」と称していたが和銅 6 年郡名を「好字」二文字にせよとの官命で「員弁郡」に改称された。

氏姓の場合旧来のまま「猪名部」の三文字を用いたとされる。

猪名部神社：祭神(主神/祖神)：伊香我色男命^{い か がしこのおのみこと}

(饒速日命六世の孫。猪名部氏は後裔とされる)。

合祀：大山祇神、火産霊神。宇迦之御魂命、^{はるすみよしただ}春澄善繩。

藤原町長尾に鎮座。創立年代不詳。

社格：貞観 8 年(867)に、延喜式神明帳、神階従四位下。(善繩の功績大)

明治 5 年、村社になる。

【春澄善繩(猪名部善繩)】は猪名部の^{みやつこ}造(族長)の家系。(造の上位階級は^{むらし}連、^{おみ}臣など)

延暦 16 年(797)藤原町長尾の地で生まれる。

天長 2 年 27 歳で上級官吏試験に合格。天長 5 年(828)「春澄宿彌」の姓を^{かほね}

与えられ「春澄善繩」と改名。更に「春澄朝臣」(八色の姓の 2 番目)となり、^{やくさ}^{かほね}

天長 10 年(833)に東宮学士となって、淳和天皇の皇太子「恒貞親王」の学問の師となる。

*恒貞親王は「承和の変(皇位継承/権力闘争)」で皇太子を廃され、出家されて嵯峨大覚寺の初祖とられた。

^{よしただ}善繩は仁明天皇に「自分は弟子」と言わしめるほどの学力の持ち主であったという。承和 10 年(843)文章博士。仁明、文徳、清和の三朝に仕える。

齊衡^{さいこう}2年(855)文徳天皇の勅命で、仁明天皇在位18年間の正史を、左大臣藤原良房と共に編修、14年の歳月を費やして、国史「続日本後期」全20巻を書き上げた。このとき73歳。翌年、貞観12年2月19日74歳で薨去。

*他にいなべ市東員町北大社に、猪名部神社があり「春澄善縄」を、祭っていて境内規模も大きい。6世紀頃の17基の古墳が散在していたが、最大の一基が猪名部氏の墓として残されている。(員弁氏の本拠地?)

4月の「上げ馬神事」は人馬が急坂を一気に駆け登る神事で有名。

また大安町高柳にも猪名部神社があります。

東泉寺 : (藤原町長尾) 東泉寺一帯は猪名部氏関与と考えられる伽藍遺跡で、延暦年間創建の「長尾廃寺」の伝説がある。

丸山神社 : 祭神 : 建御名方神(諏訪大明神)、天兒屋根命、佐々木高綱公。

神社は川原集落発祥の地。川原の鎮守社。

丸山踊り。雨乞い祈願の丸山踊り4年に1回春に奉納される。

東林寺 : 川原観音とも呼ばれ、奈良時代の高僧行基の開山ともいわれる古刹。

神亀年間(724~729)員弁川のほとりで美妙の光を拝みその源を尋ねると滝の下に沈み木あり、三筋の光明を放っていて香りは四方ににおっていたという。

行基はこの木を持って聖観音菩薩の像を彫り一寺を開基したと伝える。

苔庭と樹齢数百年を数える老杉に囲まれた静寂な境内がある。

【白滝】: 養老山地の南麓にあるので、古くから「養老の裏滝」と称されている有名な美しい滝です。

境内東にあり落差22mの滝。清楚なたたずまいは、心を優しく癒してくれるといえます。

【宝篋印塔^{ほうきょういんとう}】: 本堂脇にある石塔は、南北朝時代に造られたもので三重県の文化財です。鎌倉幕府第八代執権「北条時宗」の姪で美濃国土岐頼貞に嫁いだ人といわれる、「浄心妙因」の供養塔で、正平3年(1345)の銘がある。

川原越 : 三重県と岐阜県の県境の川原越は、古くは養老山地に阻まれた東西の村を結ぶ山越えの要路として利用された生活の道であった。西(川原側)は緩やか、東は急坂となっている。峠から濃尾平野の眺望が得られる。

養老山山頂まで縦走路が整備されている。